

C-58 運針作業と性格類型に関する実験的研究(第Ⅱ報)  
東京家政大被服学Ⅱ ○齊藤トシ 柳沢由紀子

目的 一報において、才ノ実験の運針の表針裏針の針目の長さ、および、その規則性も分析した結果と、性格類型との相関関係について報告したが、今回は、才Ⅱ実験による運針の結果を分析し、才ノ実験と比較検討する。・・・・・・

方法 資料は才ノ実験に運針を行つた同一被験者の本学短大被服専攻200名の卒業期に才ノ回目と同様20分間運針を行い測定集計した、なお、被験者は同一で分析法や集計法は前報告に準じた。・・・・・・

結果 以上の集計により、20分間の作業には、才ノ実験と才Ⅱ実験に顕著な差が見られ、量においては、才Ⅱ実験の方が多くなつている、また、性格類型によつて各々の結果に特徴が現れている。

針目の大きさに於ても、前段階、中段階、終段階に各々個人差がみられ、性格に於て、外向的なものの方が、比較的針目は揃つてゐる傾向にある。

表裏の針目の規則性についてみると、2回目の方が針目は小さく、中段階から終段階にかけて、その針目の規則性は増大しているが、性格類型による差異が大きく現れている、なお、具体的な結果については後日報告する。・・・・・・